

各都道府県の動向

青森県

「青森県の取組」

青森県小学校教育研究会社会科部会

会長 大賀 重樹

令和七年十月三十一日、本県弘前市において、第五十八回東北社会科教育研究協議会青森大会を開催いたします。

大会主題を「よりよい社会の創り手を育成する社会科学習」を深める子供を指導して」とし、研究仮説を「小学校社会科における問題解決的な学習において、振り返りや見通しを繰り返しながら、問題意識の高まりから生まれる問いや考えを様々な立場の人と協議する場を工夫すること、学びを深める子供が育つのではないかと設定し、大会に向けて研究実践を進めています。また、記念講演は、文部科学省小倉勝登教科調査官に登壇いただく予定です。

会場となる弘前市は、桜の名所として名高い弘前公園や津軽藩ねぶた村など訪れるべき史跡等も多くあります。どうか、皆様、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

栃木県

「栃木県の取組」

栃木県小学校社会科教育研究会

会長 神山 直樹

本県では、研究主題を「社会的な見方・考え方を働かせて問いを追究し、進んで社会にかかわろうとする子供を育てる社会科学習」とし、①新たな教材開発、②問いの構成・デザイン、③協働的な学びの工夫、④児童の実態に寄り添う指導・評価とその工夫の四つの視点を軸に研究を進めてきました。

今年度は七月二十六日に夏季研究大会を開催し、県内八支部からの提案資料について研究協議を行うとともに、文部科学省の小倉勝登先生より「学習指導要領を実現する社会科学習」をテーマにご講演いただきました。

次年度からは、「問い」を中心とした新たな研究主題の下、着実に研究実践を積み重ね、引き続き本県社会科教育の充実に向けてまいります。

静岡県

「静岡県の取組」

静岡県教育研究会社会科教育研究部

部長 堀江 健司

本県は「社会的事象に主体的に向き合い、よりよい社会のあり方を追究し創り上げていく」とする子どもの育成」を研究主題として、三大事業「研究大会」「調査研究活動」「研究成果刊行」に取り組んでいます。

「研究大会」は県下13地区が持ち回りで担当し、毎年8月初旬に夏季研究大会を開催しています。内容は「小学校3～6年」「中学地理、歴史、公民」の7分科会での研究討議や講演会です。「調査研究活動」としては、全小社研や全中社研での研究発表や大会参加です。「研究成果刊行」では、県下各地区の実践事例等を研究冊子やホームページに掲載しています。また、年三回、研究部委員研修会も実施しています。部長講話や関係団体からの情報提供、各地区の情報交換等です。時には、歴史博物館等への見学も行っています。今後も研究を重ねて参ります。

滋賀県

「滋賀県の取組」

滋賀県小学校教育研究会社会科部会

部長 中嶋 政二

本県では様々な学びの場を通して教科研究や教職員の資質向上に取り組んでいます。毎年、県内四ブロックで、授業実践を積み重ねています。秋には滋賀県小学校社会科教育研究協議会を開催しています。また毎年、現地研修会を開き、県内の産業や歴史、特色など自主的に学ぶ機会をもっています。

研究主題を「一票を投じる力につなげる社会科学習」とし、問いの深化と解決を繰り返すことで、社会的な見方・考え方を働かせる問題解決型の学習の工夫を行い、主題に迫ろうと実践研究を続けています。

令和六年十月に滋賀県小学校社会科教育研究協議会を大河ドラマの地、大津市立長等小学校で開催しました。公開授業、授業研究会等を行い、小倉勝登先生のご指導をいただきました。令和七年十月二十四日には第七十二回近畿小学校社会科教育研究協議会(滋賀大会)を開催します。機会があれば多数のご参加をお願い申し上げます。

岡山県

「岡山県の取組」

岡山県小学校教育研究会社会科部会

会長 渡邊 将勝

本県では、研究主題を令和五年度より「動き出す子供を育てる社会科学習」と設定し研究を進めています。本年度は、ICTを最大限に活用しながら一人ひとりが社会の変化や課題に向き合い、多様な他者と協議する過程を振り返り・見通すことのできる指導方法の工夫や単元開発を目指し、副主題を「問題解決的な学習過程の充実を通して」としました。

夏季休業中には「社会科授業の基礎・基本研修会」と題した研修会を開催し、県内各大学の先生方とともに研究主題に迫る実践を考えました。

また、NHK岡山放送局との協力で作成した「考える岡山」の第六学年教材も加わりました。令和八年度には、現在の研究主題に沿って、瀬戸内市立牛窓北小学校において県大会を開催します。令和七年度は県大会を見据え研究の充実を図っていき、機会があれば多数のご参加をお待ちしております。

全小社研

・発行所
・全国小学校社会科学研究協議会
・東京都新宿区四谷2-6
・発行人 石井 正 広 幸
・編集人 西 谷 秀

小学校学習指導要領実施状況調査について

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官
国立教育政策研究所教育課程研究センター 教育課程調査官

小倉 勝 登



令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査の結果

令和4年度に小学校学習指導要領実施状況調査が実施され、その成果と課題、改善の方向性が整理された。令和6年7月10日には令和4年度実施の学習指導要領実施状況調査の結果について速報版が公表された。速報版には、

1. 平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント
2. 学習指導要領実施状況調査

3. 2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

4. 調査問題例

が整理されている。それぞれの項目について詳細を示すと次のようになる。

(1)平成29年学習指導要領の主な改訂のポイント

○公民としての資質・能力の基礎の育成に向けて、社会的事象の見方・考え方を働かせ、問題解決の見通しをもつ活動や社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、社会への関わり方を選択・判断し、よりよい社会を考えようとする活動などの問題解決的な学習活動の充実を図る。

○中学校社会科への接続・発展を視野に入れて、内容の枠組みと対象を「地理的環境と人々の生活」「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」「歴史と人々の生活」と整理し、社会科の特質を踏まえ、内容の改善を図る。

令和4年度学習指導要領実施状況調査については、改訂のポイントである問題解決的な学習活動の充実と内容の改善の二つの柱に基づいて作問した調査問題で実施している。

(2)学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題
学習指導要領実施状況調査から明らかになった成果と課題については、次の四点に整理して示している。問題解決的な学習活動の充実に関するものが三内容の充実に関するものが一点である。

○資料から問いを見いだすことは相当数の児童ができていたが、問題解決の見通しをもつとすること課題があると考えられる。
○資料から情報を読み取ること、は相当数の児童ができていたが、社会的事象の特色や意味を考え説明することや、読

み取ったことを基に図や文などにまとめることに課題があると考えられる。

○社会に見られる課題を捉え、社会への関わり方を考えようとすることに課題があると考えられる。

○内容により基礎的な知識及び技能の定着に課題があると考えられるものや具体的な事実に基づいて社会的事象の特色や意味を理解することに課題があると考えられる。

(3)2の成果と課題を踏まえた改善の方向性

明らかにになった成果と課題を踏まえて改善の方向性としては、次の三点に整理して示している。

○指導上の改善点
・学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動、複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動、学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動を重視する。
・社会に見られる課題を踏まえ学習したことや、自分たちができることを考えた、社会への関わり方を選択・

判断したりする活動を重視する。

・内容に関しては、例えば、地理的環境の学習において基礎的な知識や技能が定着する指導や、例えば、政治の学習において具体的な事実や意義などを政治の働きと結び付けて考えるようにする指導の充実を図る。

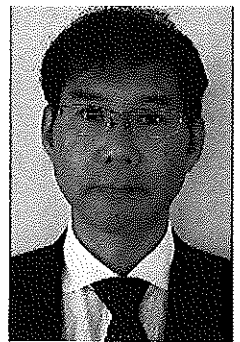
問題解決的な学習活動の充実に関する改善の方向性に示されている学習活動に関して、さらに整理して示すと、次の四つの学習活動が重要であると考えられる。

- ①学習の問題について追究・解決の見通しをもつ活動
- ②複数の情報を関連付けて社会的事象の特色や意味を考え説明する活動
- ③学習で身に付けた知識を使って自分で考えた図や文などでまとめる活動
- ④社会に見られる課題を踏まえ学習したことを基に、自分たちができることを考えた、社会への関わり方を選択・判断したりする活動を重視する、となる。

島根大会報告

全国小学校社会科学研究協議会
島根大会実行委員長

飯塚 積



八百万の神々が、一年に一度、出雲の国の出雲大社にお集まりになり、様々な縁結びの神議り（かむはかり）会議を行われる神在月の時季に、第六十二回全国小学校社会科学研究協議会研究大会を、島根県で開催することができました。本県においては、昭和五十四年以来の全国大会となりました。

【大会第一日】 出雲市民会館

①大会主題提案

『地域に学び、未来を共に拓く生き方を問い続ける社会科学習』互いに関わりながら、主体的に考え、追究する力の育成を目指して』とし、その実現に向けて、『教材の開発』『学習過程と問い』『二時間一時間の学習が充実するための支援』の三点を重点項目として掲げました。その中でも、特に『学習過程と問い』の中の『知識と問いの構造図』の作成に力を注いできました。『知識と問いの構造図』は、単元全体で育成させたい資質・能力、単元・本時で獲得させたい知識、子どもに働かせたい社会的現象の見方・考え方を働かせることができる問い等が俯瞰できる図と捉え提案しました。

『育てたい姿の育成に向け、該当単元で必要な資質・能力の明確化・子どもが問題を追究するうえで働かせる『社会的現象の見方・考え方』として効果的なものの検討・子どもの追究意欲を支える、地域にある社会的現象の教材化』『社会的現象の見方・考え方を働かせる問いの検討』『より一層一人一人の子どもへの思考に沿って学習が展開できるように、資料や共有方法、子ども自身によるよさの自覚化の工夫などの手立て』について参考になる取組だと価値づけていただきました。

②指導講評

文部科学省初等中等教育局
教育課程課教科調査官
小倉 勝登先生

『育てたい姿の育成に向け、該当単元で必要な資質・能力の明確化・子どもが問題を追究するうえで働かせる『社会的現象の見方・考え方』として効果的なものの検討・子どもの追究意欲を支える、地域にある社会的現象の教材化』『社会的現象の見方・考え方を働かせる問いの検討』『より一層一人一人の子どもへの思考に沿って学習が展開できるように、資料や共有方法、子ども自身によるよさの自覚化の工夫などの手立て』について参考になる取組だと価値づけていただきました。

③記念講演

『神在月の国 出雲』

『日本中の八百万神はなぜこの地に集まられるのか？』

万九千神社宮司
出雲市文化財保護審議会委員

錦田 剛志 様

「はじめに『日本神話と『出雲』の世界』、『出雲の神在祭の今と昔』、『なぜ、出雲に神々は参集されるのか？』、『神在祭に奉仕する者として思う』、『おわりに』の時を超えて大切にすべきもの』のお話を通して、出雲のことはもちろん、目には見えないけれども隠れたる、先人達から大切に受け継いできた価値観を忘れてはならないと教えていただきました。

【大会第二日】 三会場校

公開授業・会場校提案・指導講評・学年別授業研究会・学年別課題研究会が行われました。

それぞれの社会科教育の神議りの場において、熱い議論が交わされました。

①第一会場

出雲市立荏原小学校

講師 大妻女子大学教授

澤井 陽介先生

学習問題について考えたり、地域の人々の工夫や努力から学んだらしながら、社会について、

その仕組みを理解し、よりよくすることを考え、表現する子どもへの育成をめざされました。身近な地域の社会的現象を教材化し、自分との関わりで生まれた問いをもち、社会科の見方・考え方を働かせながら、特色や相互の関連・意味という『見えないうこと』を考える力をつける授業が展開されました。

②第二会場校

出雲市立西野小学校

講師 島根大学教授

加藤 寿朗先生

研究主題を『地域に学び、自ら問い続け、よりよい社会を考える子どもへの育成』と知識を明確にした学習過程の在り方』とし、社会現象に関心をもち、追究・検証しながら、自ら課題解決をしていく力を育てることを目標に研究を推進されました。子どもへの思考の流れを大切に、我がこととして考えていくことができる授業が展開されました。

③第三会場

出雲市立中部小学校

講師 広島大学教授

永田 忠道先生

子どもたちが自分事のできる魅力ある教材の開発をテーマに実践研究に取り組みました。『なぜ』『どうして』『知りたい』という子どもの思いを引き出し、

全小社研事務局だより

全国小学校社会科学研究協議会事務局
東京 都港区立 立井小学校 校長 矢部 洋一

各団体の理事、会員の皆様には、本年度も全小社研の諸事業について、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

本年度は、令和六年十月三十一日（木）、十一月一日（金）に島根県出雲市において、第六十二回全国大会が行われました。

また、令和七年二月六日（木）、七日（金）には、和歌山県和歌山市において年度大会が開催されました。第一日目は、和歌山城ホールにて大会主題提案に続き、文部科学省教科調査官の小倉勝登先生の指導・講評及び記念講演がありました。小倉先生からは、改めて、目指すゴールは子供の資質・能力の育成であり、そのための授業改善であること、また、中教審の動きをいち早くキャッチして次の研究に生かすことが大切であるとお話をいただきました。第二日目は、和歌山市立難波小学校と西脇小学校で公開授業と学年別の授業研究会及び課題別研究会が行われました。難波小の授業では、教師がファシリテーターになり、ICT活用をはじめ、多様な調べ方を促進させ、子供が主体的に調べ、

【次年度全国大会の予定】

○第六十三回群馬大会

令和七年十一月十三日（木）十四日（金）

なお、今後全国大会の開催を希望される場合は、五月末日までに事務局までご連絡ください。

【個人会員の募集】

多くの皆様個人会員としての参加をお願いいたします。

個人年会費 年額一、五〇〇円
郵便振替口座番号

〇〇一〇〇一六二八二五五七
全国小学校社会科学研究協議会

群馬大会のご案内

全国小学校社会科学研究協議会
群馬大会実行委員長

岩崎 琢郎



一 はじめに

「つる舞う形の群馬県」：敗戦後の荒廃した世の中にあつて、子どもたちに希望を託し編纂された『上毛かるた』にこう詠われた群馬県にて、第六十三回全国小学校社会科学研究協議会研究大会を開催いたします。本県では平成十三年以来の大会となります。

当時とは社会情勢が著しく変化したこと、次期学習指導要領の方向性も示される時期での実施となります。私ども群馬県小社研の研究が、新しい社会科授業の在り方を考える一助となればと考えています。皆様のご参加をお待ちしております。

二 大会の概要

①大会主題

よりよい社会を創造する児童を育てる社会科学習の思考力、判断力、表現力等を高め、社会参画意識を育てる学習の充実

②研究内容

大会主題の「よりよい社会」を、持続可能かつ多くの人が生きやすく、より生活しやすい社会、また「創造する」を、社会の一員としての自覚をもち、自らが社会と関わりながら見いだした問題に対して解決する方法を考え続けようとする、とそれぞれ定義しました。

目指す児童像は、「社会の問題を見いだし、社会的現象の特色や意味を理解する児童」、「自分の考えを基に複数の立場や意見をふまえて多角的に考える児童」、「自分達の生活する社会に愛情をもち、よりよい社会をつくらうとする児童」です。

その具現化のための研究の視点は、以下の三点了。「視点1」教材開発の工夫、「視点2」学習

過程の構想。「視点3」評価の在り方と指導の工夫。現在、実践と検討を重ねているところですが、例えば「視点2」では、社会参画意識を育てることにつながる価値判断や意思決定のため「まどめる・生かす過程」での問いにめあてをもたせ方などについて研究を進めています。

③日時・会場・内容

第一日 令和七年十一月十三日

十三時～十六時五十分

群馬会館

群馬県前橋市大手町三丁目一

開会行事・全体会・大会主題提案・指導講評・記念講演・閉会行事

第二日 令和七年十一月十四日

九時三十分～十六時二十分

第一会場 前橋市立桃井小学校

第二会場 高崎市立塚沢小学校

公開授業・全体会・指導講評・学年別授業研究会・学年別課題研究会（紙上発表含む）

④講師

第一日 全体会指導講評

文部科学省初等中等教育局教科調査官

小倉 勝登 先生

記念講演

薩摩・くまの侍 林家つる子 様

第二日 学校別指導講評

群馬大学准教授 宮崎 沙織 先生

第二会場

大妻女子大学教授 澤井 陽介 先生